

# 取り組み2

## ■登山道の環境整備



写真⑪

御岳山：案内標識を設置



写真⑫

New

両神山：案内標識を設置

SC取組後  
遭難件数が多い両神山  
に案内板等  
を設置

2015年～2018年の山岳遭難事故が多い上位5山

図表⑯

	2015年	2016年	2017年	2018年	合計
両神山	11	3	13	8	35
武甲山	3	3	2	2	10
三峰山	5	0	2	3	10
雲取山	1	1	4	0	6
雁坂峠	1	0	4	0	5

# 短・中期・長期評価（意識・行動・状況の変化）

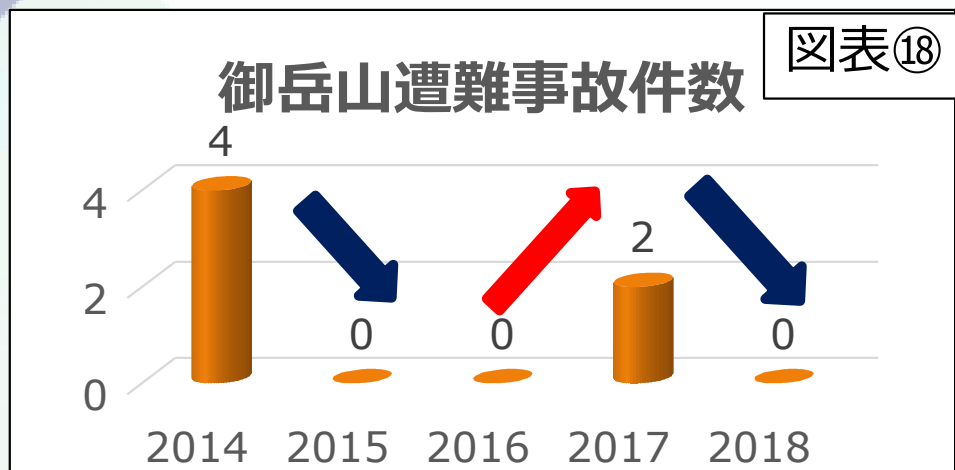
## ■案内板等の設置数(短・中期評価)

データ：埼玉県、秩父市

図表⑰

年度	秩父御岳山	両神山
2014	2箇所(標識設置)	—
2015	10箇所(簡易標識設置)	—
2016	—	4箇所(標識交換) 2箇所(ロープ設置) 1箇所(はしご整備)
2017	コース整備(2017~2019) ・2箇所(総合案内板設置) ・1式(コース整備)	1箇所(くさり修繕) 1箇所(案内板設置) 11箇所(標識交換)
2018		

## ■対象とした山での遭難件数(長期評価)



認証

データ：秩父警察署



認証

写真⑧



写真⑩



写真⑨



### ③安全講習会の開催（継続）

<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林作業中の事故が多い</li> <li>・ハチ刺されによる外傷が多い</li> </ul>	
<b>方向性</b>	農林機具による事故防止	
<b>内容等</b>	<b>【内 容】</b>	草刈機やチェーンソーなどの機具を安全に使用するための実技講習会を開催する。また、市内で開催することで、参加者を増やす。
	<b>【対 象】</b>	農林作業従事者
	<b>【対策委員会 の役割】</b>	<b>取組みへの支援</b> ①農林機具講習会の市内開催の支援（ハチ刺されも講習会で注意喚起） ②講習会等の開催チラシをホームセンターで配布
<b>（短期） 意識・知識の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具の安全使用に関する意識の変化	<b>【測定】</b> アンケート調査  <b>【測定】</b> 救急搬送データ
<b>（中期） 態度・行動の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具を安全に使用している人の割合	
<b>（長期） 状態・状況の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具使用中の受傷者数	

# 取り組み3

## ■安全講習会の開催

写真⑬

市内講習会(草刈り機)



## SC認証後

チェーンソーの取り扱い講座開始（市内で無料開催）

写真⑮



写真⑭

チェーンソー取扱講座

New



# 短・中期評価（意識・行動の変化）

## ■安全な使用方法の知識の向上・守っている人の割合(短・中期評価)

### 草刈機講習会アンケート

回答者(n=30人)

図表⑳

項目	2018年
講習会は必要だと思うか	100%
講習会の内容を実践しようと思うか	100%
草刈機使用中にケガやヒヤリとしたことはあるか	37.9%

### チェーンソー取扱講座アンケート

回答者(n=17人)

図表㉑

項目	2018年
今回の講座は参考になった	100%
チェーンソーの教育を受けたことがない	63%
役に立つと思った部分はどこか	メンテナンス 41% 取扱 29% 安全の確保 18%

データ：秩父市

# 長期評価（状況の変化）と現況

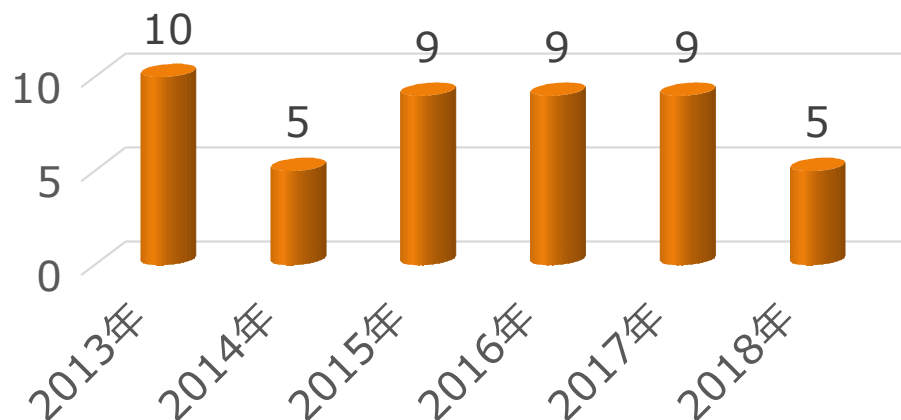
## ■農林機具による事故（長期評価）

データ：労働災害データ（秩父労働基準監督署）

データ・救急搬送データ（秩父消防本部）

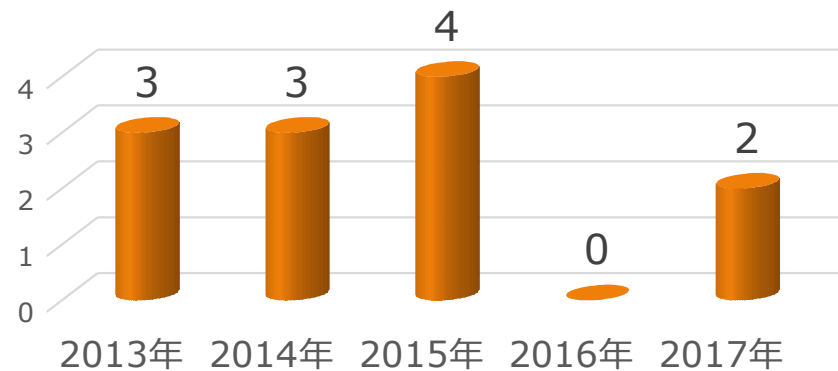
農林作業中の 受傷者数

図表⑳



林業 受傷者数

図表㉑



年度	受傷者数	草刈機	チェーンソー	農業用機械 (管理機等)	その他 (転倒等)
2013	10	1	0	2	7
2014	5	1	0	3	1
2015	9	0	1	4	4
2016	9	1	2	3	3
2017	9	0	0	5	4
2018	5	0	1	0	4
合計	39	3	3	17	23

図表㉒

## ④チラシの配布（継続）

<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林作業中の事故が多い</li> <li>・ハチ刺されによる外傷が多い</li> </ul>	
<b>方向性</b>	農林機具による事故防止	
<b>内容等</b>	<b>【内 容】</b>	初心者が機具を購入しやすいホームセンターで安全使用を呼びかけるチラシを配布する。また、町会を通じて回覧する。
	<b>【対 象】</b>	趣味で農作業をする人、町会でボランティア作業をする人
	<b>【対策委員 会の役割】</b>	<b>取組みを実施</b> ①ホームセンターへお願いし、注意喚起チラシ及び講習会案内チラシを配布 ②市報や市内回覧で注意喚起を実施
<b>（短期） 意識・知識の変化</b>	<b>【指標】</b> 啓発チラシの配布枚数	<b>【測定】</b> 秩父市データ
<b>（中期） 態度・行動の変化</b>	農林機具を安全に使用している人の割合	<b>【測定】</b> アンケート調査
<b>（長期） 状態・状況の変化</b>	<b>【指標】</b> 農林機具使用中の受傷者数	<b>【測定】</b> 救急搬送データ



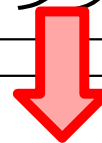
# 取り組み4

## ■チラシの配布 新規

草刈機使用啓発チラシ

SC認証後

講座の開催チラシをホームセンターで配布  
(チェーンソーの取り扱い講座)



### 刈払機は正しく使いましょう！

刈払機は手軽で便利な機械ですが、事故が多く、死亡事故も発生しています。正しく安全に使いましょう。

- フェイスシールドや保護メガネを装着
- 帽子・ヘルメット
- 長袖の作業服
- 作業靴
- すべりにくい靴
- 作業服のポケットには、正しい向きで刺さってはいけません
- ペダルの位置を確認し、片足を踏まなければなりません
- 手元をしっかりと握る

事故の多くは、「刃の接触」「刃の巻き戻し」「転倒・転落」によるものです。作業時は周囲を警戒し、周囲員を警戒し直しましょう。

作業中に、作業場所の周囲に木の根や石、土留めなどがあると、刃が跳ね返り、事故の原因となります。作業中は周囲を警戒し、周囲員を警戒し直しましょう。

2017年9月 埼玉県森林組合連合会 発行

New

チェーンソー取扱い講座のご案内

チェーンソーは誰でも購入でき、木の伐採等では大変役立ちます。一方、取り扱いを誤ると大きなけがにもつながるため、使い方を熟知したうえで使用する必要があります。

チェーンソーの安全な使い方や注意点等をお伝えする取り扱い講座を以下のとおり開催します。ふるってご参加ください。

【チェーンソーの取扱い講習会】

と き：平成30年8月25日(土) 9:00～

と ころ：秩父広域森林組合木材センター

(秩父市寺尾2718-1)

※資格取得講座ではありません

※木の駅プロジェクト説明会(裏書参照)と併せて行います

【問合せ先】秩父市森づくり課(電話 22-2369)



参加費無料！どなたでも参加できます！！

チェーンソー取扱い講習の様子



# 短・中期・長期評価（意識・行動・状況の変化）

## ■チラシ配布数（短期評価）

図表②⑥

年度	設置数（市内ホームセンター）	配布数
2015	4店	300枚
2016	4店	400枚
2017	4店	100枚
2018	4店	200枚

## ■安全使用の割合（中期評価）

図表②⑦

ホームセンターでのチラシの配布	2019	2022
周知度	14% (n=1060)	
安全使用の割合	39% (n=153)	

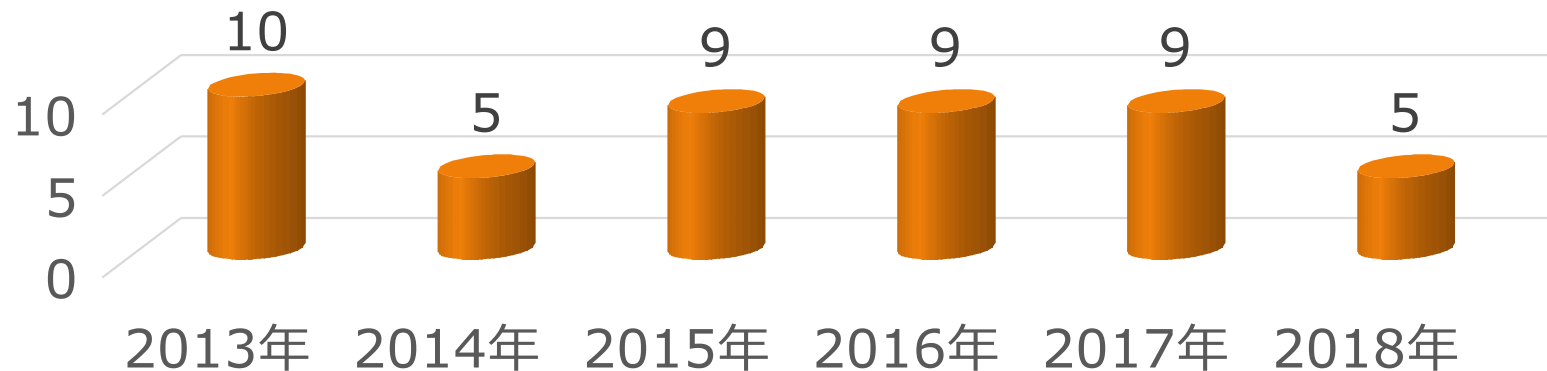
周知度・割合の上昇を目指す

データ：安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート

## ■農林機具による事故（長期評価）

図表②③

### 農林作業中の 受傷者数



データ：救急搬送データ（秩父消防本部）

# ⑤サイクリングマップの活用（拡大）

課題	サイクリングの事故が多い	
方向性	サイクリング中の安全確保	
内容等	【内容】	既存のサイクリングマップに危険箇所を掲載し、サイクリストに注意を促す。次回、増刷時に危険ポイントの掲載を増やす。
	【対象】	サイクリスト
	【対策委員会の役割】	<b>取組みの支援</b> ①サイクリングマップ配布箇所の増設 ②サイクリングマップの危険箇所の掲載を増やす
<b>（短期）</b> 意識・知識の変化	<b>【指標】</b> マップの配布枚数と配布箇所数	<b>【測定方法】</b> 秩父市データ
<b>（中期）</b> 態度・行動の変化	<b>【指標】</b> サイクリングマップを活用している人の割合	<b>【測定方法】</b> アンケート調査
<b>（長期）</b> 状態・状況の変化	<b>【指標】</b> サイクリングでの受傷者数	<b>【測定方法】</b> 救急搬送データ

# 取り組み5

## サイクリングマップの活用

既存のサイクリングマップ

写真⑬



現在、コースの概要程度。

SC認証後

コンビニエンスストアでマップの配布開始。多くのサイクリストへ見てもらう。

写真⑭

New

写真⑮



マップを掲示

空気入れ整備

事故が多い  
ロードレース  
大会でコース  
中の事故マッ  
プを配布

# 短・中期評価（意識・行動の変化）

## ■チラシ配布数と配布箇所数（短期評価）


データ：秩父市

図表⑳

年度	配布箇所数	配布枚数
2013	—	サイクリングマップ66,000部印刷
2014	2(観光課、観光案内所)	ロードレース参加者へコース事故マップ配布開始
2015	10(道の駅4箇所、秩父郡内レンタサイクル4箇所)	—
2016	10	—
2017	10	—
2018	31(コンビニエンスストア21箇所)	7,800枚 (コンビニ6,600枚 ロードレース700枚 窓口500枚)

## ■サイクリングマップの活用割合（中期評価）

図表㉑

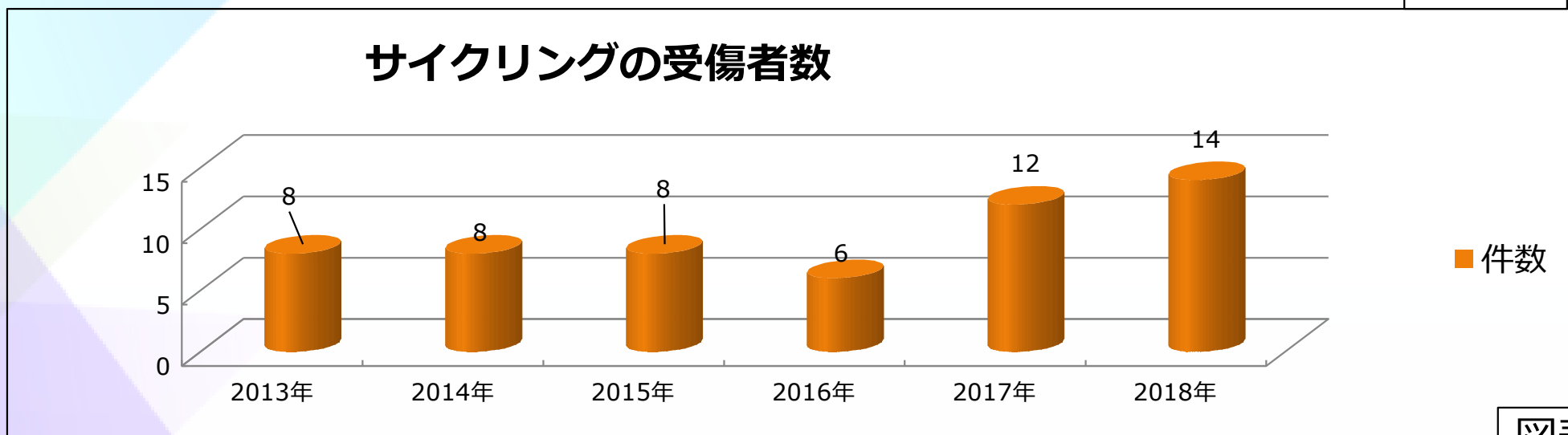
サイクリングマップの配布	2019	2022
周知度	13% (n=1052)	 周知度・割合の上昇を目指す
活用の割合	29% (n=138)	

データ：安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート

# 長期評価（状況の変化）と現況

## サイクリング受傷者数(長期評価)

図表③〇



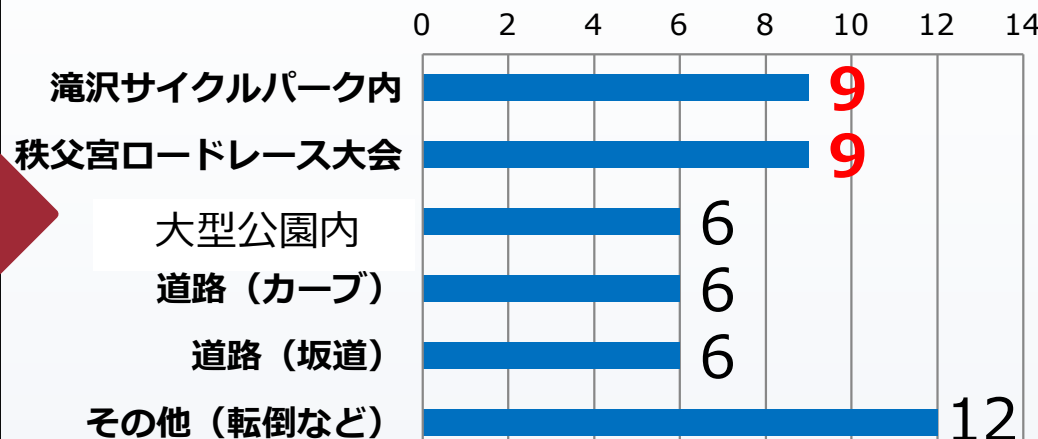
図表③①

図表⑧

### 2008～2013 サイクリング中のケガ (n=27人)主な発生場所



### 2014～2018 サイクリング中のケガ (n=48)主な発生場所



データ：救急搬送データ（秩父消防本部）

# ⑥ 自転車安全ポイントの周知・増設（継続）

課 題	サイクリングでの事故が多い	
方向性	サイクリング中の安全確保	
内容等	【内容】	自転車の空気入れ、パンク修理キットなどを設置した「自転車安全ポイント」を増設する。また、利用者が少ないことから周知をする。
	【対象】	サイクリスト
	【対策委員会の役割】	<b>取組みへの支援</b> ① 自転車安全ポイントの周知・増設 ② サイクルステーションの活用とヘルメットの着用促進
（短期） 意識・知識の変化	【指標】 安全ポイントの認知度	【測定方法】 アンケート調査
（中期） 態度・行動の変化	【指標】 安全ポイントを活用している人の割合	
（長期） 状態・状況の変化	【指標】 サイクリングでの受傷者数	【測定方法】 救急搬送データ

# 取り組み6

## ■自転車安全ポイントの周知

写真⑱



自転車安全ポイント  
(サイクルステーション)

SC認証後

コンビニエンスストアを自転車安全ポイントとして活用。

写真⑳



New

サイクルラック

写真㉑



写真㉒

## ■自転車安全ポイントの設置

図表㉓



ヘルメットも貸出

年度	設置数
2013	4箇所(市内道の駅)
2014	5箇所(サイクルステーション)
2015	5箇所(のぼり旗を設置し周知)
2018	26箇所(コンビニエンスストア21箇所追加)



# 短・中期・長期評価（意識・行動・状況の変化）

## ■安全ポイントの認知度（短期評価） 活用している人の割合（中期評価）

自転車安全ポイント	2019	2022
認知度	9% (n=1048)	
活用の割合	38% (n=98)	

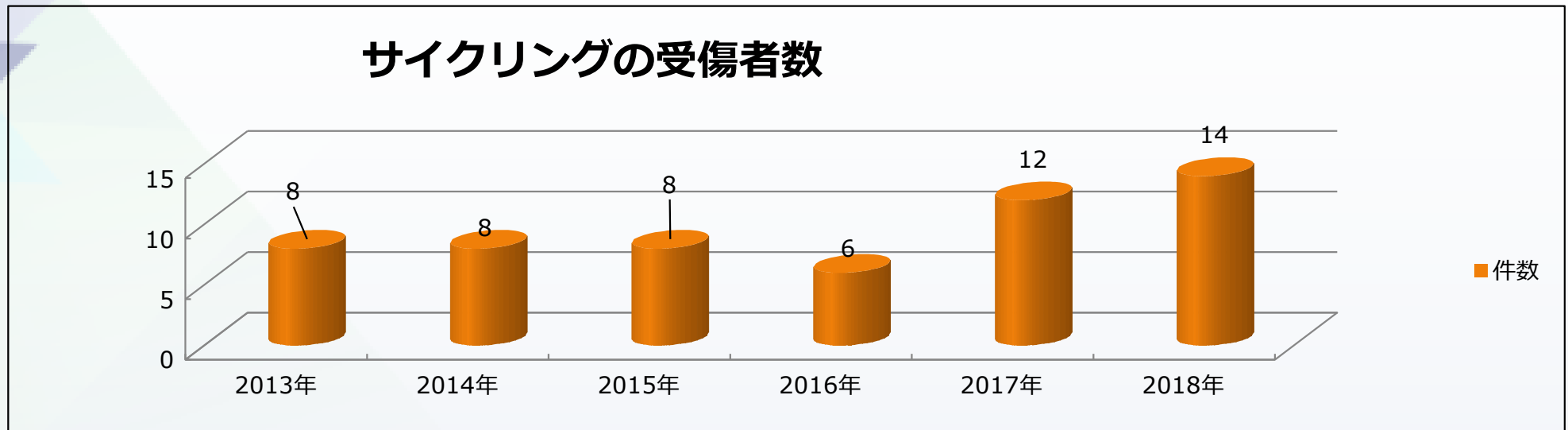
図表③③

認知度・割合の上昇を目指す

データ：安全・安心なまちづくりに関する市民意識調査アンケート

## ■サイクリング受傷者数(長期評価)

図表③⑩



データ：救急搬送データ（秩父消防本部）

# まとめ①（取組みの成果）

図表③④

	成 果
山岳	<ul style="list-style-type: none"><li>★山岳遭難件数は減少傾向である。</li><li>★環境整備の取組みを行った秩父御岳山の山岳遭難件数も減少した。</li></ul>
農林機具	<ul style="list-style-type: none"><li>★農林機具講習会参加者の実践行動への意識が高くなっている。</li></ul>
サイクリング	<ul style="list-style-type: none"><li>★サイクリストの利用が多い「コンビニエンスストア」の活用を開始できた。</li></ul>

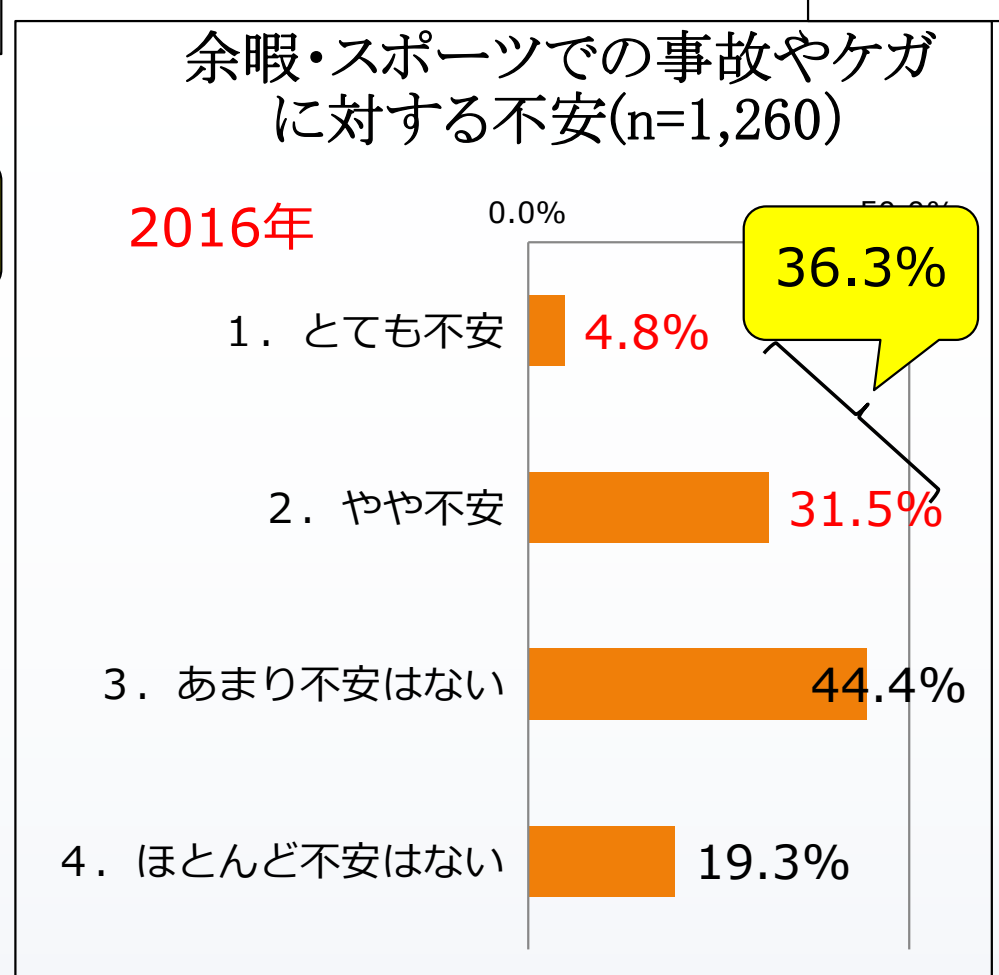
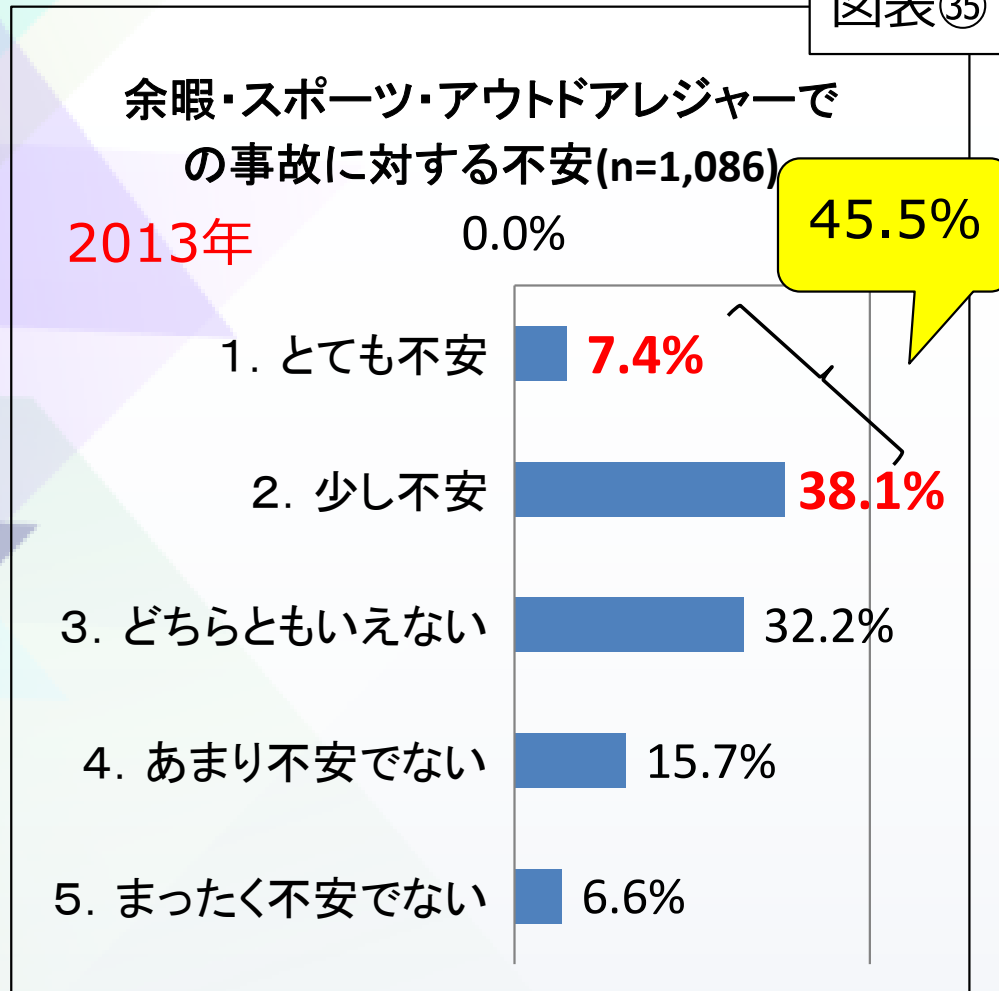
# まとめ② (アンケート成果)

## 余暇・スポーツでの不安感の減少

余暇・スポーツでの事故やケガに関する不安感は減少傾向にある。  
45.5% (約半数) から36.3%へ減少。

図表③⑥

図表③⑤



# まとめ③（評価による振り返り）

図表③⑦

	新たな課題
山岳	<ul style="list-style-type: none"><li>① 「安全な登山を行っている人」の割合が低い。</li><li>② 評価を示すための「登山者へのアンケートの実施」が困難。</li><li>③ 「両神山に対する環境整備」が、なかなか結果に結びつかない。</li></ul>
農林機具	<ul style="list-style-type: none"><li>① 「管理機・耕運機の巻き込まれ事故」が増えている。</li><li>② 「農林機具を安全使用している人」の割合が低い。</li></ul>
サイクリング	<ul style="list-style-type: none"><li>① 「サイクリング（競技種目）の受傷」が多くなっている。</li><li>② 「サイクリングマップと自転車安全ポイントの認知度」が低い。</li></ul>

# まとめ③ (振り返りによる対応)

図表③7

## 課題への今後の対応

山岳

- ①無理のない安全な登山実施者を増やしていく。
- ②両神山の継続整備を実施していく。

農林機具

- ①管理機・耕運機によるケガ等の調査を実施し、取扱についても啓発をする。
- ②農林機具の安全使用者を増やしていく。

サイクリング

- ①競技種目は、環境整備面での対策を研究していく。また、その性質からSCと切り離していくことも考える。
- ②店側と相談し、コンビニエンスストアの活用を図り、のぼり旗等の整備も進める。



国際認証都市  
セーフコミュニティちちぶ



**ご清聴ありがとうございました！**